

平成30年度 岩手県立釜石高等学校経営計画（全日制課程）

校長名：佐藤 一也

1 現状 把握 及び 将来 展望	対 象			
	児童・生徒	保護者	地域住民	進路先
	○人間関係が良好で、明るく充実した生活をする事 ○わかる授業と学力の向上を図ること ○希望進路の実現 ○文武両道を目指し学校行事・生徒会活動も充実すること	○学力が向上し、希望進路の実現 ○安全・安心で充実した高校生活をする事 ○文武両道を通じて心身ともに健康で心豊かな人間に成長すること	○将来、社会のリーダーとして活躍でき、社会に貢献できる人間の育成 ○品性と教養を身につけ、地域の模範・誇りとなる生徒の育成 ○開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域の要望等に誠実で迅速な対応をすること。	○大学教育を受けるための高い知識と学力を身につけること ○心身ともに健康で、適切なコミュニケーション及び他と協調できる能力を身につけること ○伝統に恥じない進路と部活動実績の向上を図ること。
(2) 学校に影響を与える変化	○東日本大震災からの復興途上にある地域の生活及び教育環境・条件の悪化による影響。 ○少子化による定員割れと生徒の多様化及び学力差拡大、震災等による他地域への生徒の流出。 ○SSH事業の導入による理数教育の充実及び科学技術人材の育成 ○いわて進学支援ネットワーク事業（県北・沿岸地域人材育成事業）による財政的支援と進路指導の充実 ○釜石祥雲支援学校高等部併置によるインクルーシブ教育推進への期待			
(3) パートナーとの関係	パートナー			
	P T A ・ 同窓会	教育委員会		
	○P T A ・ 同窓会組織と良好な関係づくり。 ○P T A ・ 同窓会からの財政的な支援。	○沿岸地区のセンタースクールの一つとして全面的に支援をいただいている。 ○被災地の復興教育及びSSH事業推進に特別な人事配置・財政支援をいただいている。		
2 目指す学校像	1 「文礼一如」の教育理念のもと、礼節と学業を尊ぶ校風の樹立を目指す。 2 「生きる力」を育み、「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成を目指す。 3 広い視野を持ち、地域や社会に貢献できるリーダーの育成を目指す。 4 学校と家庭・地域との協働を推進し、地域に理解・信頼され誇りとなりうる学校を目指す。 5 東日本大震災による被災地の復興を支援するとともに、復興教育を推進する学校づくりを目指す。 6 SSH事業を通じて、国際的な発信力に長けた科学技術人材の育成を目指す。 7 教職員のメンタルヘルスに配慮し、心身ともに健康で、働きがいのある学校を目指す。			
3 今後の取組方針	1 教育活動の充実に向けて (1) 震災後の長期的な対応の充実を図るため、あらゆる教育活動において「ていねい」な指導・支援を推進し、学校内外の連携体制の構築を図る。 (2) 生徒の学校生活満足度の向上を図るため、包括的な方略を検討・策定する。 (3) 学校評価を実施し、結果を公表・報告するとともに、学校と家庭・地域との協働の推進を図る。 (4) 教育公務員として高い倫理観、コンプライアンスを意識して職務に精励する。 (5) 教職員のメンタルヘルスに配慮し、働きやすい職場環境づくりに努める。 (6) 的確な現状分析、達成状況の確認により必要な改善策を取れるように、常にP D C Aサイクルを踏まえ、学校経営計画を推進していく。 2 学習指導について (1) 学力向上、授業力向上を図るための包括的な方略を検討・策定する。 (2) 50分7時間授業を大切に、「わかる授業・力のつく授業」に努める。			

【数値目標】

高校2年生の基礎力確認調査において、数学及び英語の「授業の内容がわかる」と答えた生徒の割合

数学(2年) 73% 英語(2年) 80%

高校2年生の基礎力確認調査における数学及び英語の平均正答率

数学(2年) 70% 英語(2年) 70%

- (3) 「授業力・指導力」の向上を目指し、教員相互の授業参観や授業研究等の充実を図り、授業改善に積極的に取り組む。全ての教員が、教員相互の参観を年間に1回以上実施するとともに、授業研究会等に参加する。
- (4) 生徒の学習状況の把握や分析を行い、家庭学習の確実な実施や自学自習を効果的に行う力を育て、学力の向上に資する。
- (5) 生徒による「授業評価」の実施と生徒自身の授業への取り組みを自己点検させ、教員と生徒の信頼関係が深まる授業実践に努め、「学力・授業力・指導力」の向上を図る。

3 生徒指導について

- (1) 釜石高校生としての心構え、品性、挨拶、礼儀、生活の仕方、服装、態度、言葉遣い、携帯電話等の使用マナー、交通・乗車マナー等基本的な生活習慣と生活基礎力の確立を図る。
- (2) 部活動・生徒会活動・学校行事に意欲的に参加し、自ら規律ある学校生活を送り、活気と充実感に溢れた3年間を過ごすことができるように指導する。
- (3) 部活動と学習の両立に向けた対応策を検討・策定する。

4 進路指導・キャリア教育について

- (1) 3年間を見通した進路指導計画・キャリア教育計画のもとで、生徒の学力やニーズに応じた進路指導を行い、生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。
- (2) 各課・学年・教科との連携を深め、全職員参加型による組織的な進路指導体制の確立を図る。
- (3) 国公立大学合格者数は60名、国公立難関大学合格者数は5名を目標とする。就職希望者は、内定100%を実現する。
- (4) 大学共通テストの実施等を踏まえた対応について検討・実践を進める。

5 心身の健康・安全指導について

- (1) 面談(二者、三者)及びホームルーム経営の充実を図り、一人ひとりの生徒理解を深め、心身の状態を的確に把握し、適切な支援・助言に努める。
- (2) 学校安全体制を確立し、健康・安全教育の徹底を図り、危機管理への備え及び事故防止に万全を期する。
- (3) 校舎内外の清掃を徹底し、環境美化に努め、落ち着いた潤いのある教育環境づくりを推進する。
- (4) 心身に不安を持つ生徒や学校不適応生徒の未然防止、早期発見・早期対応と学校生活への支援のため、チーム支援を柱とする教育相談体制の充実を図る。
- (5) 道徳教育、体験活動、読書活動、情報モラル教育等、豊かな心を育む教育の推進を図る。

6 SSH事業の推進について

- (1) 第2期SSH指定校の2年目として、全校・全職員体制での推進体制の確立を図るとともに、「ゼミ活動」の指導力を高める。
- (2) 全教職員が、学校設定科目等育課程やカリキュラム、指導方法の開発等についての理解を深め、実践を進める。

7 復興教育の推進について

- (1) 「いわて復興教育」プログラムに基づく教育活動を推進する。
- (2) 生徒の心のサポートの充実を図る。
- (3) 学校における放射線対策、被災により親や生活基盤を失った生徒への支援、教職員の健康管理等、安全で安心な教育環境の確保を図る。
- (4) SSH事業を利用し、グローバルな視点から被災地の復興と持続的発展に寄与する科学技術人材の育成を図る。

8 インクルーシブ教育の推進について

- (1) 本校生徒と釜石祥雲支援学校高等部生徒が、ともに学び活動する場を積極的に設け、インクルーシブ教育の推進を図る。
- (2) 発達障がいを含め障がいのある生徒や、特別な教育的ニーズをもつ生徒への支援の充実(個別の指導計画の作成等含む)を図る。

平成30年度 岩手県立釜石高等学校経営計画（定時制課程）

校長名：佐藤 一也

1 現状把握及び将来展望	(1) 学校に対するニーズ	対 象							
		児童・生徒	保護者	地域住民	他（ex:進路先）				
	(2) 学校に影響を与える変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校卒業資格を得る ○ 希望進路実現 ○ 充実した学校生活 							
	(3) パートナーとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無事に高校卒業 ○ 希望進路の実現 ○ 安全・安心な学校生活 							
2 目指す学校像	(1) 学校に対するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雇用（生徒のアルバイト等）を提供 ○ 社会人、職業人としての自立 							
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな基礎学力と勤労精神溢れる人材の育成 							
3 今後の取組方針	(2) 学校に影響を与える変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災からの復興途上にある地域の生活・教育環境の悪化・多様な生徒の入学と、学力差の拡大 ○ 不況・震災による保護者の経済力の低下と雇用不安 ○ 雇用の減少（勤労学生の減少） ○ 釜石祥雲支援学校高等部併置によるインクルーシブ教育推進への期待 							
		<p style="text-align: center;">パートナー</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">定時制教育振興会</td> <td style="width: 33%;">教育委員会</td> <td style="width: 33%;">他（同窓会）</td> </tr> <tr> <td>顧問・役員に市内の企業主が居り、定時制教育に理解が深く、協力的で良好な関係</td> <td>養護助教諭の配置やTTによる授業を可能にするなどの教職員の配置増や財政的支援</td> <td>定時制教育に理解があり、生徒第一の学校運営に協力的である</td> </tr> </table>				定時制教育振興会	教育委員会	他（同窓会）	顧問・役員に市内の企業主が居り、定時制教育に理解が深く、協力的で良好な関係
定時制教育振興会	教育委員会	他（同窓会）							
顧問・役員に市内の企業主が居り、定時制教育に理解が深く、協力的で良好な関係	養護助教諭の配置やTTによる授業を可能にするなどの教職員の配置増や財政的支援	定時制教育に理解があり、生徒第一の学校運営に協力的である							
3 今後の取組方針	(3) パートナーとの関係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 校訓『文礼一如』のもと、礼節と学業を尊ぶ校風の樹立を目指す (2) 「生きる力」を育み、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成を目指す (3) 学びがい（通いがい）のある定時制課程教育の学校を目指す (4) 広い視野を持ち、地域や社会に貢献できる人材の育成を目指す (5) 東日本大震災による被災地の復興を支援し、復興教育を推進する学校を目指す (6) 学校と家庭・地域との協働を推進し、信頼される学校を目指す (7) 教職員のメンタルヘルスに配慮し、風通しのよい職場環境をつくる等、心身ともに健康で働きがいのある学校を目指す 							
		<ul style="list-style-type: none"> (1) あらゆる教育活動において「ていねい」な指導・支援を推進し、学校内外の連携体制の構築を図る。 (2) 的確な現状分析、達成状況の確認により必要な改善策を取れるように、常にPDCAサイクルを踏まえ、学校経営計画を推進していく。 (3) 「わかる授業・楽しい授業」を大切にし、義務教育段階からの学び直しを含め、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。 (4) キャリア教育の充実を図り、生徒の進路希望を達成するためにきめ細やかな進路指導を実践する。 (5) インターンシップ等を通じて、社会性の育成や自己職業適性、職業選択等について考える機会をつくる。 (6) 漢字検定、ビジネス文書検定等の資格取得を積極的に推進する。 (7) いじめ等を防止し、生徒一人ひとりが安全・安心な学校生活を送れるように生徒指導の充実を図る。 (8) 生徒の多様な実態や教育的ニーズに対応するため、チーム支援を柱とする教育相談やカウンセリング等を活用しながら、個別の指導計画等の情報を共有し、生徒の支援を継続的に行う。 (9) 本校生徒と釜石祥雲支援学校高等部生徒がともに学び活動する場を積極的に設け、インクルーシブ教育の推進を図る。 (10) 新入生や転編入生徒の情報を収集し、生徒一人ひとりを支援するために学校訪問を実施する。 (11) 保護者との連絡・連携を図り、協働しながら生徒の育成を図る。 (12) 定時制教育振興会との連携を強化し、定時制教育に対する理解促進を図り、教育活動の充実に資する。 (13) 外部機関（警察・病院・教育センター等）との連携を強化する。 (14) 学校評価を実施・結果を公表し、家庭・地域との協働推進を図る。 (15) コンプライアンスを意識して職務に精励するとともに、教職員のメンタルヘルスに配慮し、働きやすい職場作りに努める。 							